



# 1 在来タンポポ ..... キク科



市内に分布するおもな在来種のタンポポはカントウタンポポであるが、まれにシロバナタンポポなども見られる。近年セイヨウタンポポとの雑種とされるものがあり、調査では注意が必要とされている。

今回の調査では市内232メッシュで記録されている。平成9年度、14年度の153メッシュから前回261メッシュに増加し、今回も前回の状況が維持されていると思われる。最近では河川改修や耕地整理が一段落して土砂の移動も少なくなり、今まで生育が観察されていない場所からも156メッシュの報告があり、在来種のタンポポの復活が進んでいると考えられる。

(矢島民夫)



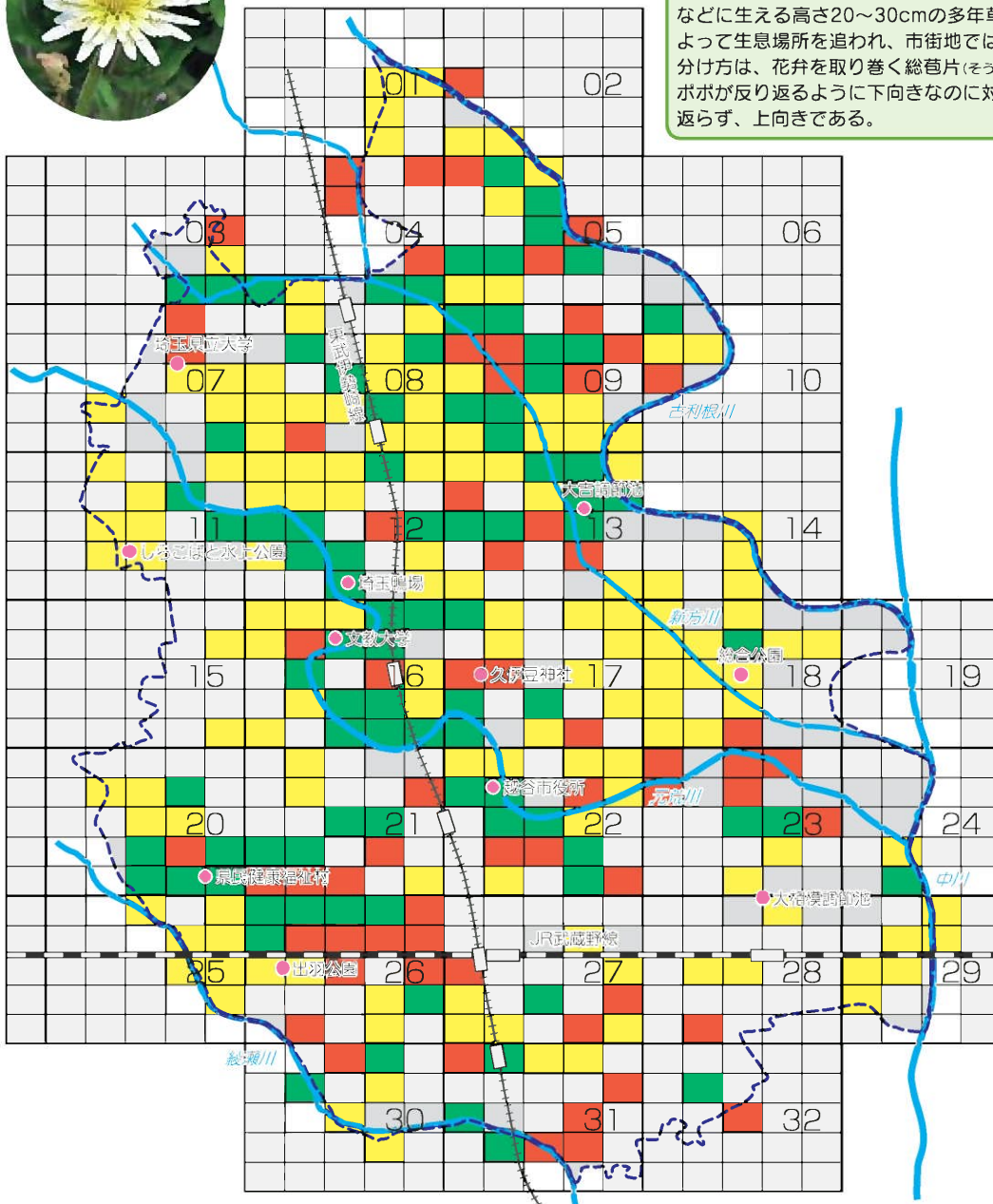
シロバナタンポポ

## ●カントウタンポポ

花の時期・色 3～5月・黄色

特徴：関東地方で最も普通に見られる在来タンポポで、野原や道端などに生える高さ20～30cmの多年草。土壌の攪乱(かくらん)などによって生息場所を追われ、市街地では見ることが少なくなった。見分け方は、花弁を取り巻く総苞片(そうほうへん)にあり、セイヨウタンポポが反り返るように下向きなのに対し、カントウタンポポは反り返らず、上向きである。

- 14年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 14・24年度報告あり





## 2 セイヨウタンポポ ..... キク科

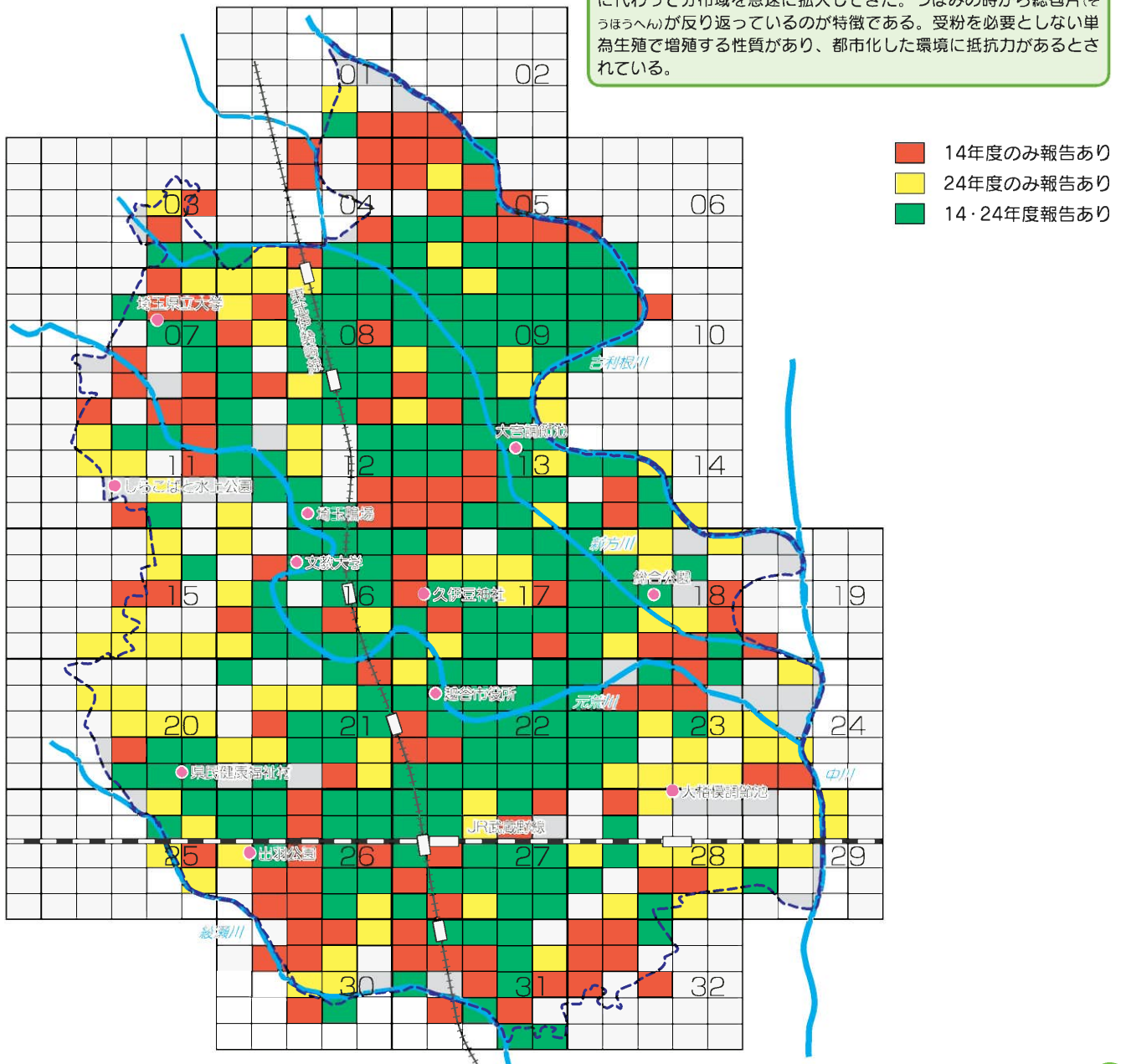


代表的な外来種のタンポポで市内の道路わき、公園、河川敷などいたるところに、最も普通に観察される。この中には果実が暗赤色になるアカミタンポポも混じていると思われる。

今回の調査では328メッシュで記録されている。平成9年度には最大の404メッシュ（1,146件）の記録があり、14年度341メッシュ、19年度346メッシュと徐々にではあるが減少傾向にある。これは在来種であるカントウタンポポが増加傾向にあることと関係していると思われる。（矢島民夫）

花の時期・色 3～9月・黄色

特徴：ヨーロッパ原産の帰化植物で、高さ10～30cmの多年草。開発などで裸地になったところを生活場所とするため、在来タンポポに代わって分布域を急速に拡大してきた。つぼみの時から総苞片（そうほうへん）が反り返っているのが特徴である。受粉を必要としない単為生殖で増殖する性質があり、都市化した環境に抵抗力があるとされている。





### 3 セイタカアワダチソウ ..... キク科



初めは工事場から出された残土を積んだ埋立地などに侵入が見られた。その後、休耕田や河川敷などに大群落を作り、秋の開花期には全体黄色になり大変目立った代表的な外来植物である。

今回の調査では256メッシュで記録されている。平成9年度291メッシュから、14年度には321メッシュ、19年度312メッシュと増加傾向にあったが、今回はやや減少傾向が見られる。最近ではアレチウリやセイバンモロコシなどの外来植物に生育環境を奪われつつあり、大群落を見ることが以前より少なくなっている。

(矢島民夫)



アレチウリ

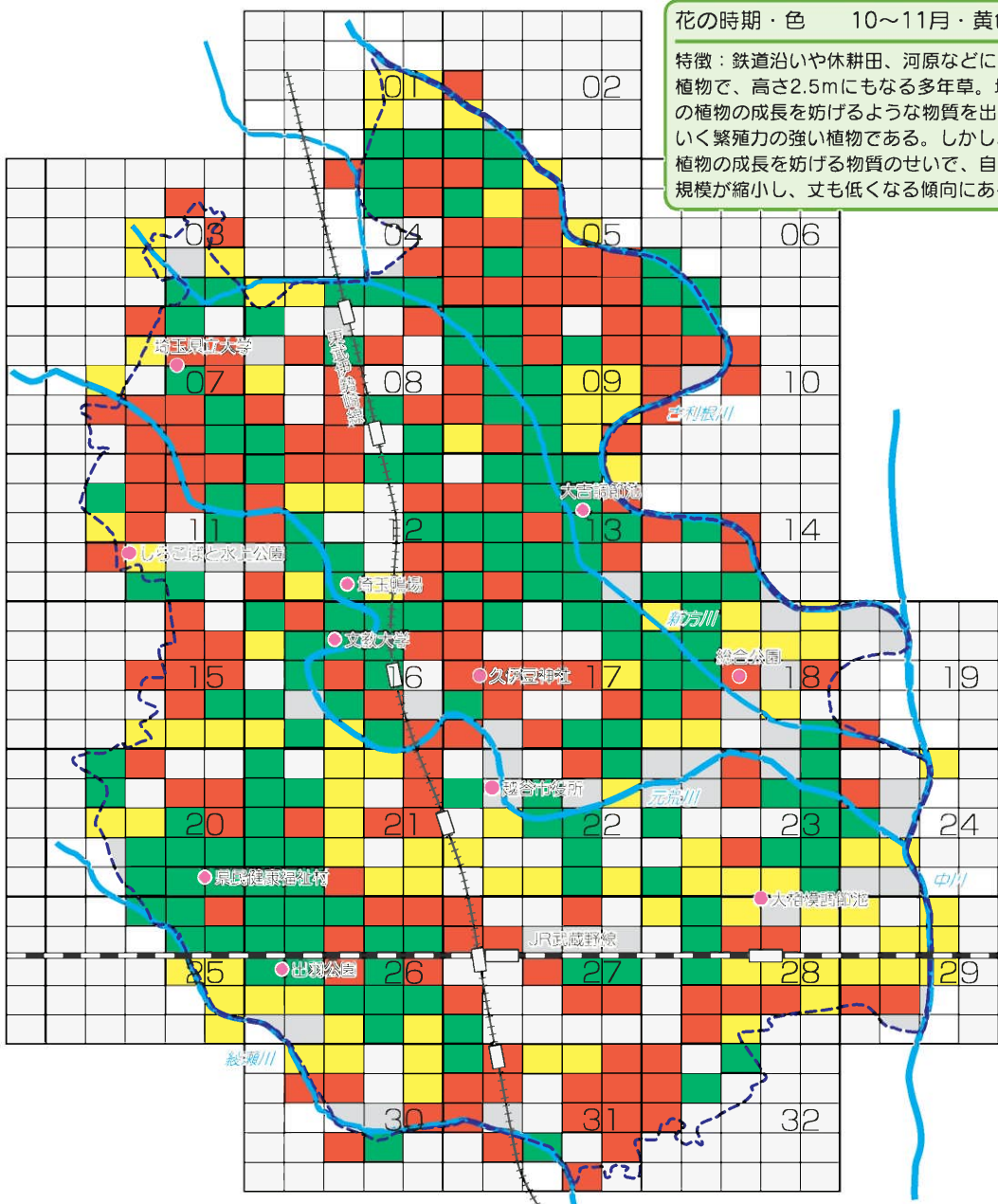
左)花 右)実



花の時期・色 10～11月・黄色

特徴：鉄道沿いや休耕田、河原などに生える北アメリカ原産の帰化植物で、高さ2.5mにもなる多年草。地下茎が地中を横に走り、他の植物の成長を妨げるような物質を出し、自分の生育範囲を広げていく繁殖力の強い植物である。しかし、同じ場所に繁殖していると、植物の成長を妨げる物質のせいで、自身の成長が妨げられ、群落の規模が縮小し、丈も低くなる傾向にある。

- 14年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 14・24年度報告あり



セイバンモロコシ



## 4 カントウヨメナ ..... キク科



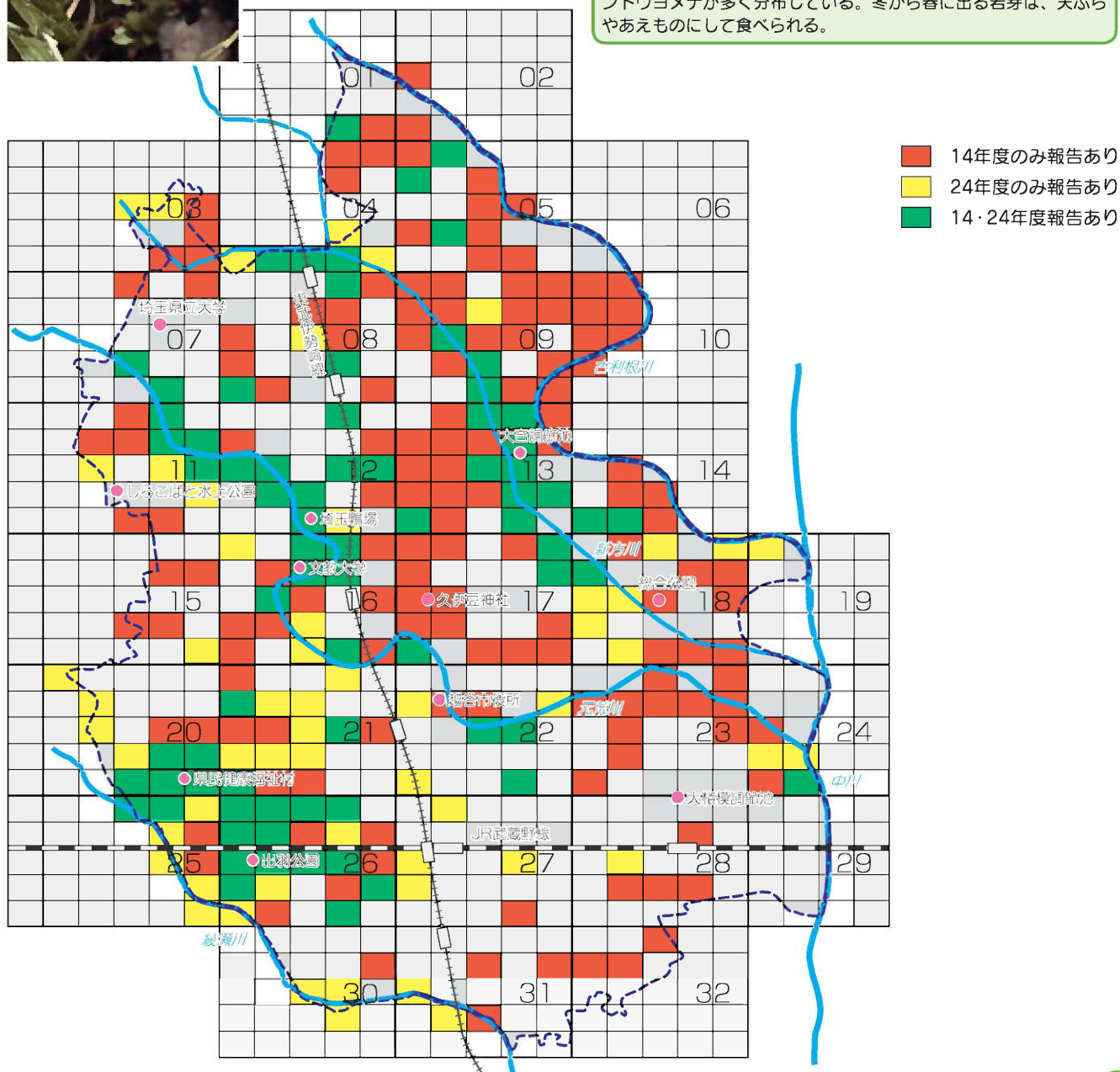
淡青紫色の花

やや湿り気のある河川敷や水田わきに多く見られる。今回の調査記録は131メッシュに減少している。平成9年度の192メッシュから14年度では224メッシュに増加し、19年度は167メッシュに減少した。特に14年度には、市内の北東部で多くの報告が見られたが、今回の調査では減少が目立つ。しかし、今回の調査では南西部からの報告が多くなっているが、その原因は不明である。全体的には市街化の進行に伴い生育環境が少なくなっていることや除草剤の使用が主な原因と思われる。

(矢島民夫)

花の時期・色 9～10月・白、淡青紫色

特徴：田のあぜや川辺のやや湿った所に生える、高さ0.5～1mの多年草。地下茎を伸ばして増える。関西はヨメナが多く、関東はカントウヨメナが多く分布している。冬から春に出る若芽は、天ぷらやあえものにして食べられる。





## 5 キタミソウ ..... ゴマノハグサ科



夏期には水中で休眠し、秋から春にかけて水位の低下により陸地化した泥地で、発芽・成長・開花する特殊な生育環境をもった植物である。このため市内でも分布が限られており、発見される場所も少ない。

今回の調査では13メッシュ（27件）の報告だけである。平成9年度の35メッシュが最大で、14年度19メッシュ、19年度22メッシュとやや減少している。市内の生育状況を見ると元荒川、古利根川（葛西用水）の堰（せき）の上流部に安定した大群落がある。また、そこから入水されている用水などに時々生育が見られるが、安定した群落とはならないことが多い。

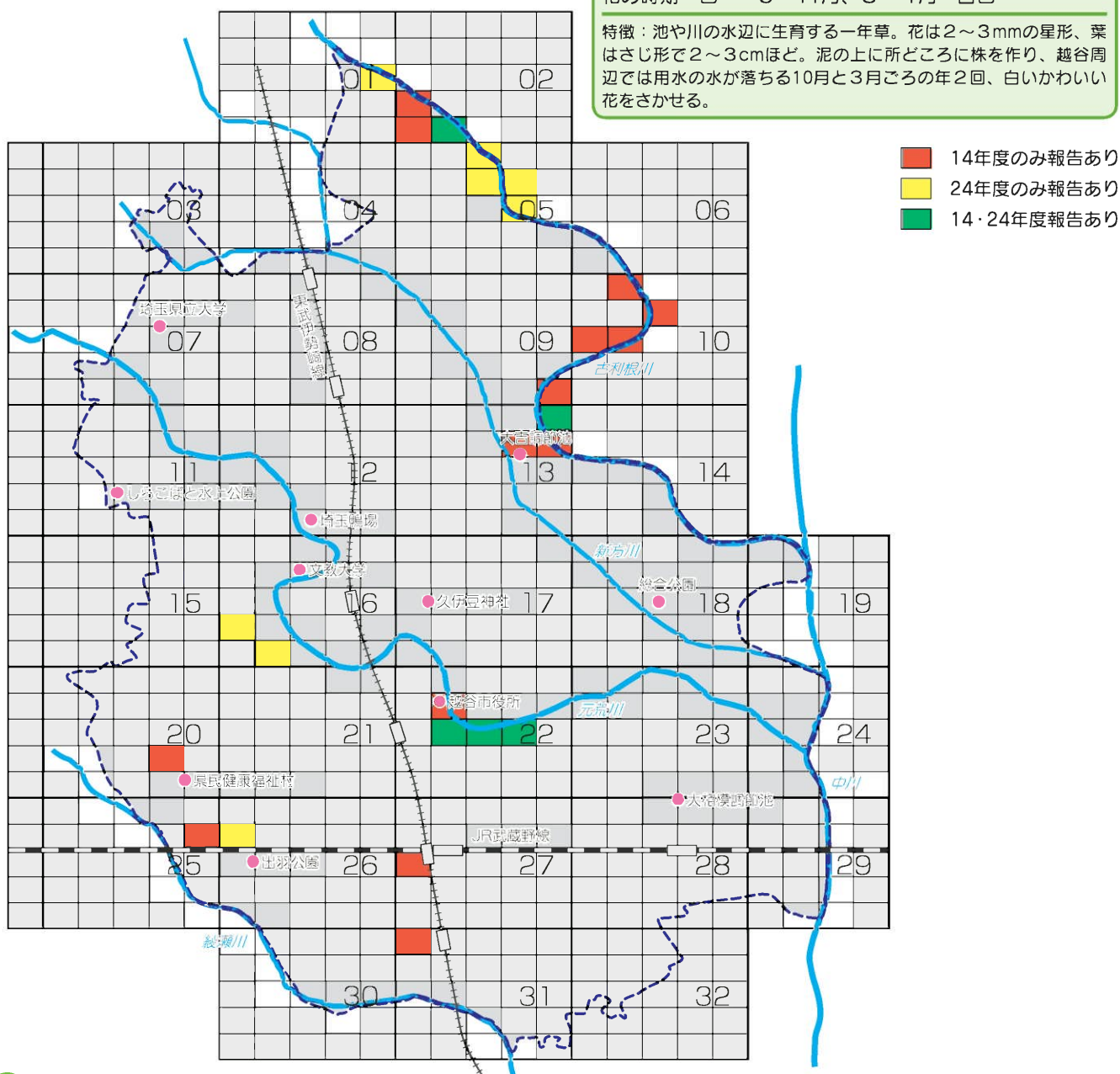
（矢島民夫）

埼玉県レッドリスト絶滅危惧ⅠB類（2011）

環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類（2012）

花の時期・色 9～11月、3～4月・白色

特徴：池や川の水辺に生育する一年草。花は2～3mmの星形、葉はさじ形で2～3cmほど。泥の上に所どころに株を作り、越谷周辺では用水の水が落ちる10月と3月ごろの年2回、白いかわいい花をさかせる。





## 6 スミレ

スミレ科



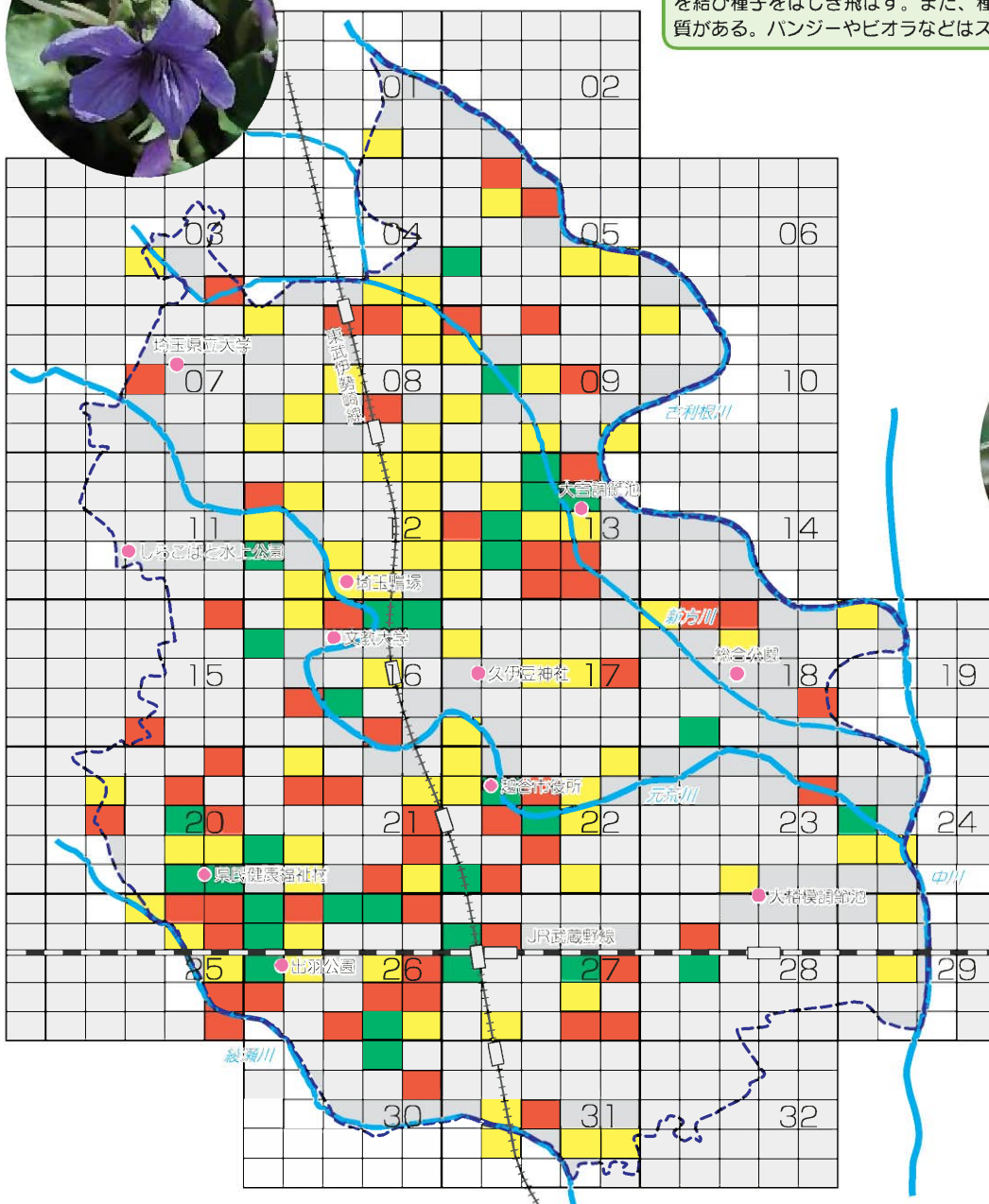
スミレの仲間は市内に数種類生育している。この違いを正確に見分けるのは開花期以外では難しい。スミレの生育は比較的少ないと思われるが、今回の調査では110メッシュ（209件）報告されている。平成19年度の報告は91メッシュでありあまり変化していないように見られる。19年度には市の南西部から多くの報告があったが、24年度には比較的北東部からの新報告が目立っている。スミレ類は発芽力が強く一般の道路わきにも見られるので、今後生育場所を拡大することも予想されるが、道路わきにはヒメスミレやノジスミレが多いので注意が必要である。  
(矢島民夫)



ノジスミレ

花の時期・色 4～5月・濃紫色、薄紫色、白色

特徴：明るい雑木林の縁や、人間が草を短く刈っている土手や田畑のあぜなどに生えることが多い植物。春遅くに咲く花は開かず実を結び種子をはじき飛ばす。また、種子はアリに運ばれて広がる性質がある。パンジーやビオラなどはスミレの仲間の園芸種である。



- 19年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 19・24年度報告あり



ヒメスミレ



# 7 ミゾソバ

タデ科

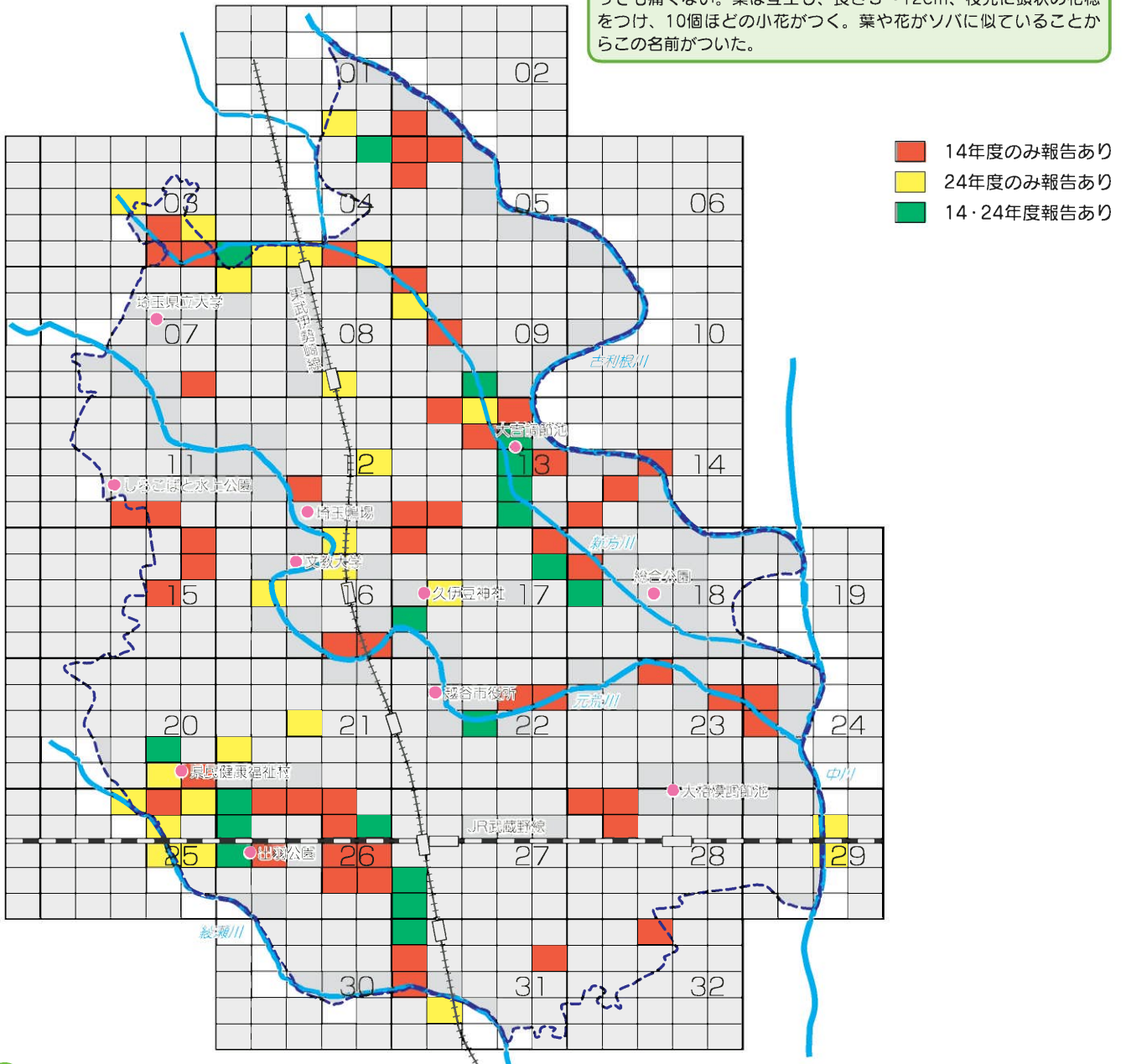


以前は、水田わきのあぜや水路などいたるところに見られた。過去の調査では平成9年は76メッシュ、14年度74メッシュ、19年度69メッシュとあまり変化がなかったが、今回の調査報告は45メッシュ（116件）と確実に減少している。14年度に比べ、市の南東部や北東部からの報告が著しく減少している。市内の分布をみるといずれも水田の残っている地域から報告されている。減少の原因としては、都市化の進行や水路の改修、水田雑草の駆除に用いられる除草剤の使用などが考えられる。

(矢島民夫)

花の時期・色 7～10月・花先は紅紫色、下部は白色

特徴：田やあぜ、水辺、溝など、やや湿った所に群生する一年草。茎は地面をはい、上部は立ち上がって下向きのとげがあるが、さわっても痛くない。葉は互生し、長さ3～12cm、枝先に頭状の花穂をつけ、10個ほどの小花がつく。葉や花がソバに似ていることからこの名前がついた。





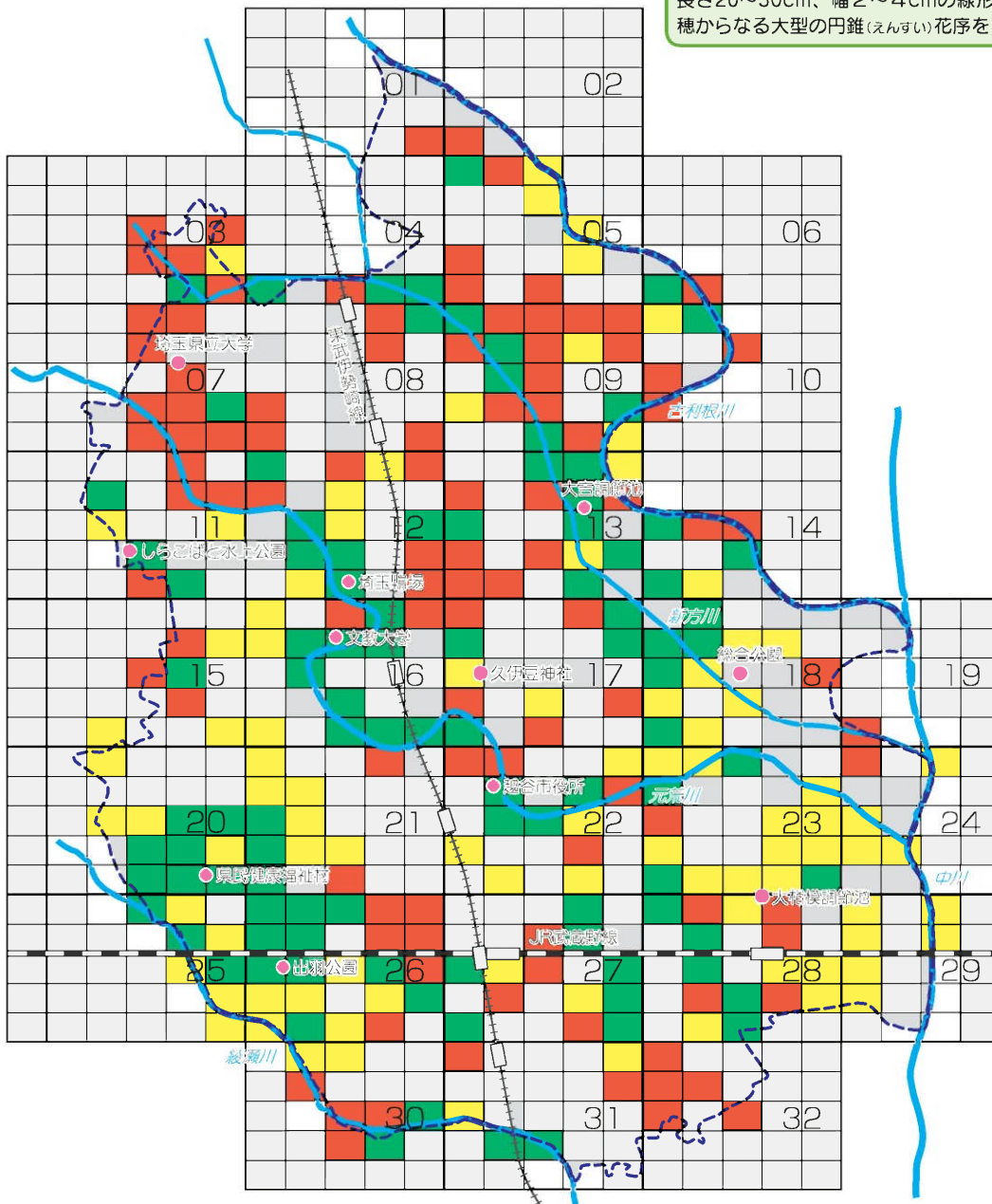
## 8 ヨシ(アシ) ..... イネ科



水がたまるような湿地に群生する大型の植物で、現在でも河川敷や休耕田には大群落を形成する。今回の調査では189メッシュ（549件）の報告がある。平成14年度の調査では204メッシュとメッシュ数はあまり変化がない。このことはヨシが大型で大群落になるため、人目につきやすいことによると思われる。今後市街化の進行や河川改修に伴う土地の乾燥化が進むと、さらに減少することが危惧される種である。古くは「よしず」の原材料などとして利用されていたが、今ではほとんど利用されることもなく、保護されることもなくなった。（矢島民夫）

花の時期・色 8～10月・淡紫色

特徴：日本各地の沼、河岸に生える、高さ2～3mの多年草。ふつう大群落をつくる。茎は太くてかたく、節間は長く、葉は互生し、長さ20～50cm、幅2～4cmの線形で先がたれる。秋、多数の小穂からなる大型の円錐（えんすい）花序を出す。



- 14年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 14・24年度報告あり





## 9 ジュズダマ ..... イネ科



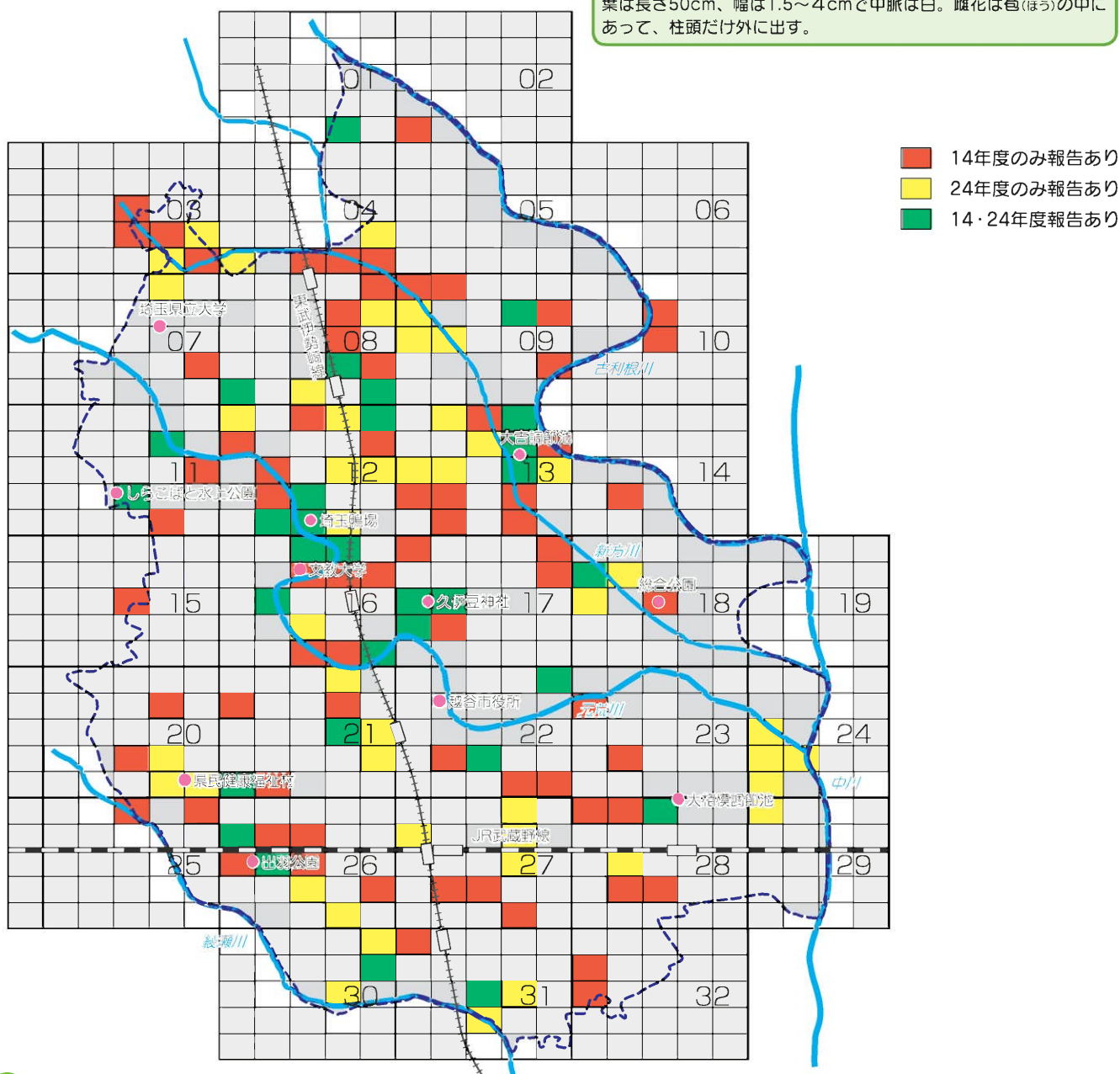
ジュズダマの花

小河川や用水わきなど比較的水分の多い環境を好む。今回の調査では76メッシュ（177件）の報告があるが、平成14年度の調査では103メッシュの報告があり確実に減少傾向が見られる。14年度、24年度とも市内全域に比較的均一に生育しているが確認された個体数は減っており、今後はまれにしか見られなくなる可能性がある。以前はジュズダマ（数珠玉）の名前にあるように、固い果実（苞葉：ほうよう）をつないで遊んだりするために、家の近くに栽培・保護されていたようである。

（矢島民夫）

花の時期・色 9～10月・淡緑色

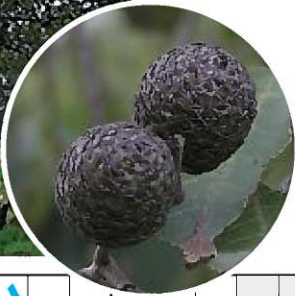
特徴：水辺に生え、大きな株になる、高さ1～2mの多年草。果実は骨のように固い苞（ほう）に包まれて、これをつないで数珠にする。葉は長さ50cm、幅は1.5～4cmで中脈は白。雌花は苞（ほう）の中にあつて、柱頭だけ外に出す。





# 10 ハンノキ

カバノキ科



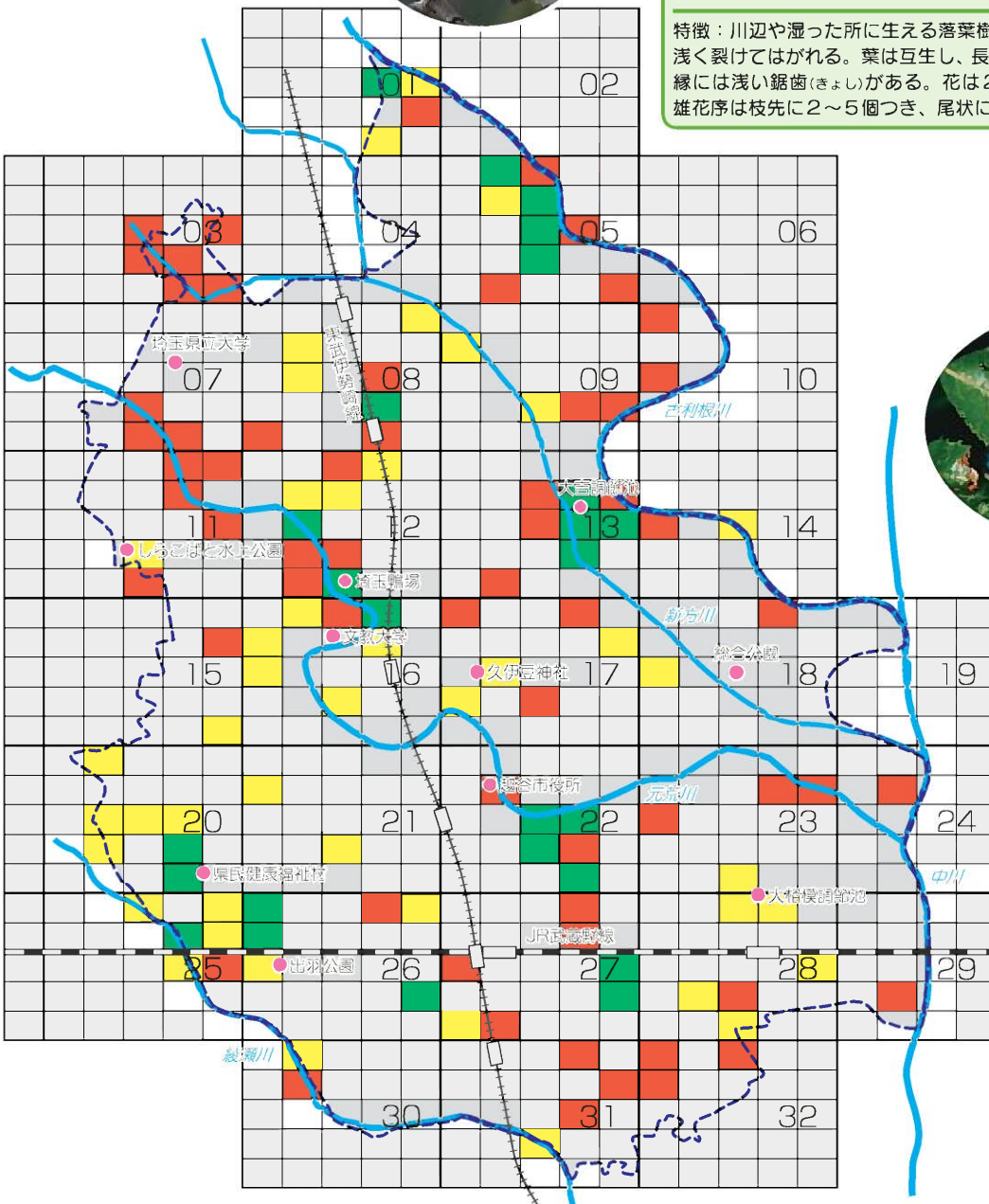
円写真上)房状の雄花と色づいた実 下)若い実

低湿地に生育する代表的な樹木である。今回の調査では70メッシュ（170件）の報告がある。平成19年度には133メッシュ（324件）の報告があり最大となっている。それ以前は、14年度87メッシュ、9年度112メッシュと少なかった。19年度の増加原因は不明であるが、湿地の減少により、以前のような群落を見ることは減少している。県のチョウ「ミドリシジミ」の食草として知られており、積極的に保護する必要がある。

(矢島民夫)

実の時期	10月
実の特徴	1.5~2cmのマツボックリ状
高さ	15~20m

特徴：川辺や湿った所に生える落葉樹で、樹皮は紫褐色で不規則に浅く裂けてはがれる。葉は互生し、長さ5~13cmの長楕円状卵形。縁には浅い鋸歯(きょし)がある。花は2~3月、葉の出る前に開き、雄花序は枝先に2~5個つき、尾状にたれている。



- 14年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 14・24年度報告あり



ミドリシジミ



# 11 ケヤキ

ニレ科



一般的には丘陵から山地の斜面林などに自生する。しかし市内では、古くから有用材として屋敷林や社寺林に植栽されていた。近年では「市の木」として街路樹や公園に積極的に植えられることが多く、市内でもよく目にする事ができる。今回の調査では254メッシュと記録が減少しているが、平成19年度304メッシュ、14年度279メッシュ、9年度350メッシュと半分以上のメッシュで記録されている。近年、市街部では成長すると落葉やムクドリのフン害などの問題が生じている。

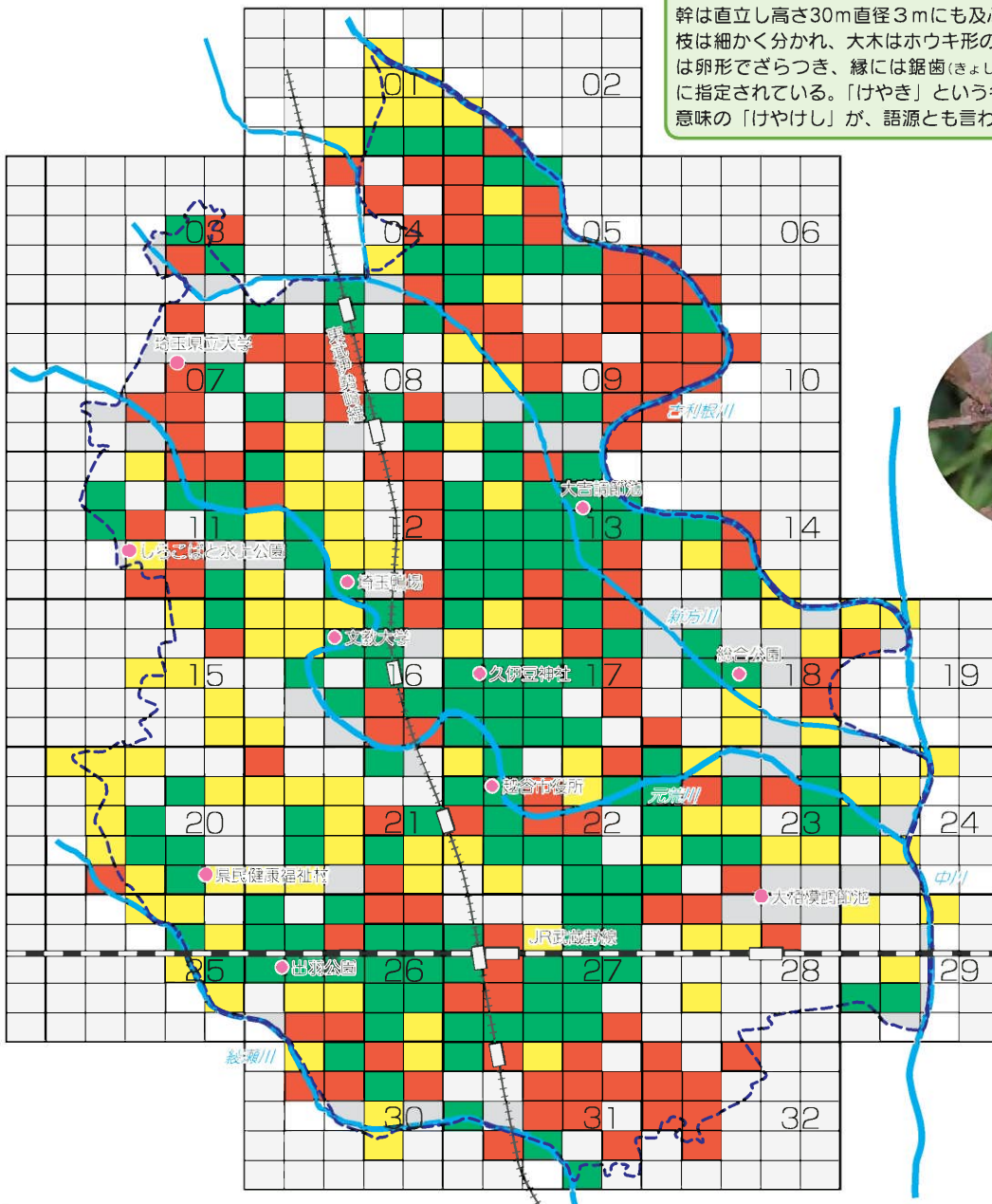
(矢島民夫)

実の時期 10月

実の特徴 ゆがんだ球形で暗褐色

高さ 20~30m

特徴：日本の代表的な落葉広葉樹。山地の沢沿いに自生するほか、庭木、公園樹、街路樹として植えられ、特に関東地方に多く見られる。幹は直立し高さ30m直径3mにも及ぶものもあり、樹皮は灰褐色、枝は細かく分かれ、大木はホウキ形の特徴的な樹形をしている。葉は卵形でざらつき、縁には鋸歯(きょし)がある。越谷市の「市の木」に指定されている。「けやき」という名前は、「他に秀でる」という意味の「けやけし」が、語源とも言われている。



- 14年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 14・24年度報告あり



ケヤキの実



## 12 クヌギ

ブナ科



クヌギの実  
(どんぐり)



山地に自生するが、里山にコナラと共に新炭用に植栽される代表的な樹木である。低湿地の多い市内ではコナラより本樹を植えることが多い。今回の調査では103メッシュ（275件）の報告がある。平成19年度126メッシュ、14年度106メッシュ、9年度84メッシュに記録されている。全体的に減少傾向は見られないが、薪炭などの利用はなくなり、新たに植栽されることはなく老齢木が増えている。樹液にカブトムシやクワガタなどの昆虫類の集まる場所としても貴重な木であり、今後衰退が進むものと思われ、新たな植栽など工夫する必要がある。

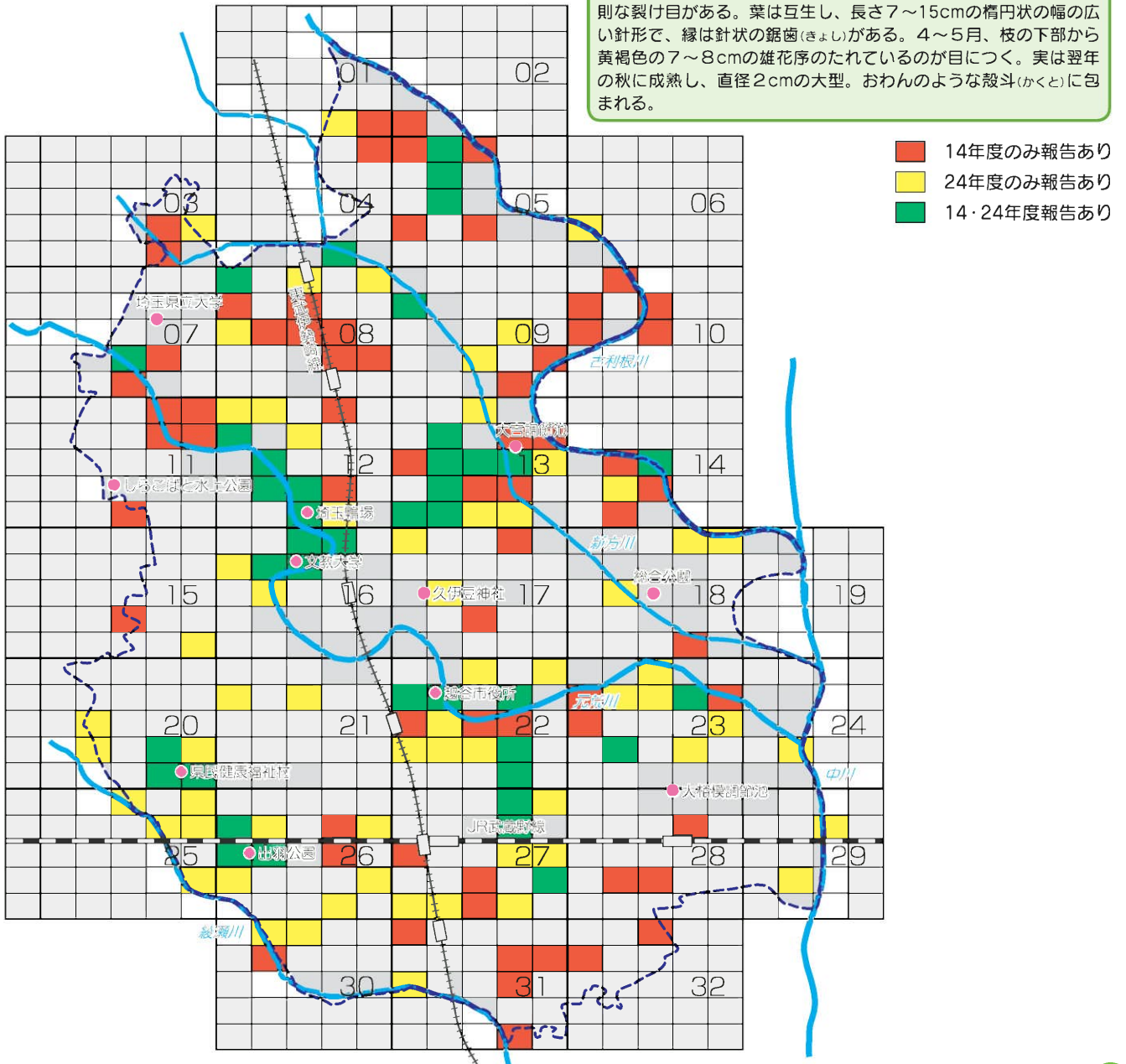
(矢島民夫)

実の時期 10月

実の特徴 球形で茶色

高さ 10~15m

特徴：低い山地に生える落葉樹で、樹皮は灰褐色で厚くて縦に不規則な裂け目がある。葉は互生し、長さ7~15cmの楕円状の幅の広い針形で、縁は針状の鋸歯(きょし)がある。4~5月、枝の下部から黄褐色の7~8cmの雄花序のたれているのが目につく。実は翌年の秋に成熟し、直径2cmの大型。おわんのような殻斗(かくと)に包まれる。





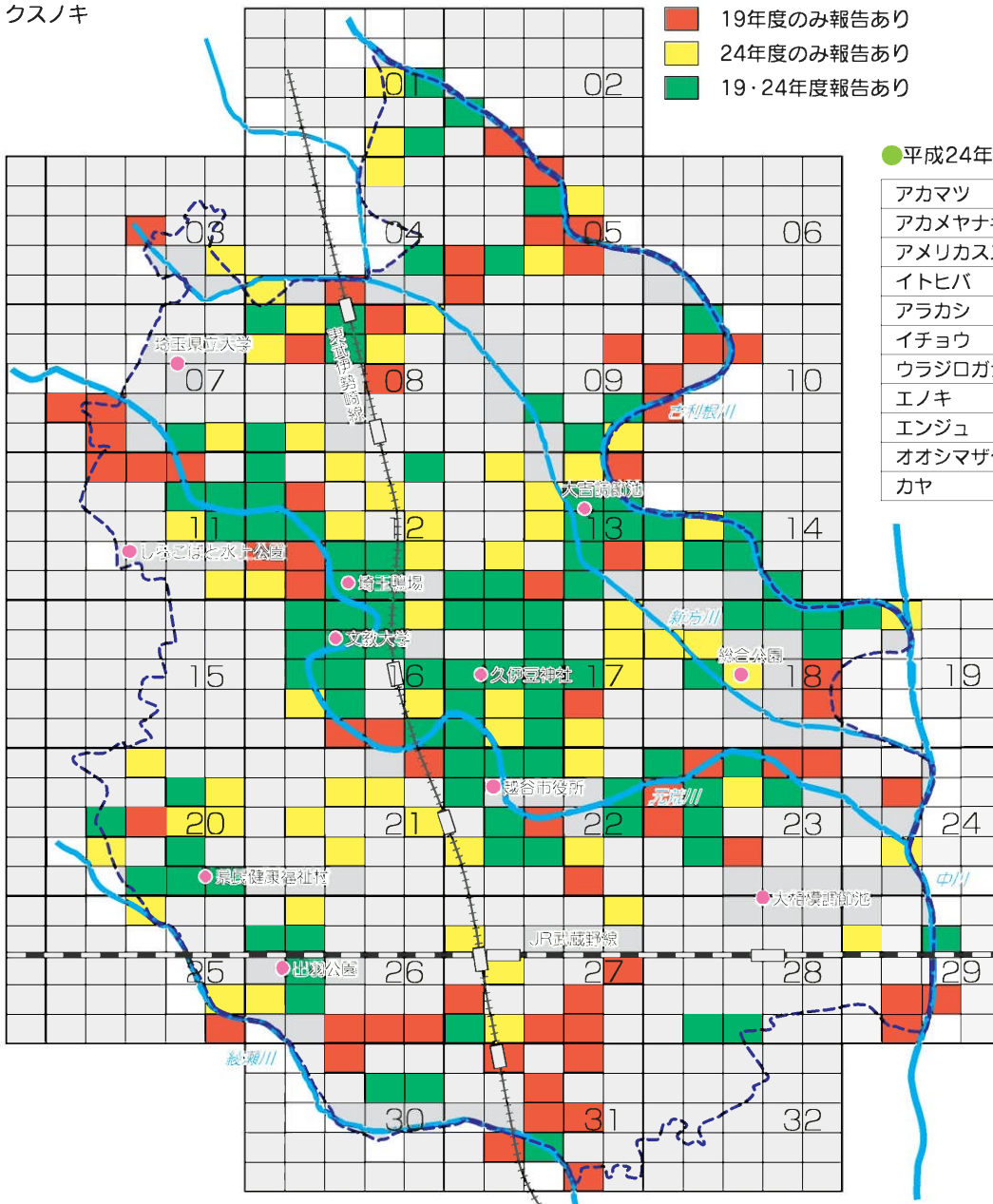
### 13 幹周り2m以上の樹木



今回の調査ではおよそ41種616本の報告があった。報告の多かった樹種はケヤキ174本（29%）、クスノキ62本（10%）、イチヨウ51本（8%）などである。これらは一般的に成長が早いことで知られている木である。ケヤキが最も多かったのは、建築材として古くから使用されることもあり積極的に植栽、保護されていたものと思われる。クスノキは暖地性の常緑樹であり、古くは寺社に植えられることが多く大木となることもある。近年公園や街路樹として植えられることが増えている。イチヨウは実（銀杏）を食用とすることもあり、古い寺社には必ずと言ってよいほど植えられていた。このことから大径木が残っているようである。

(矢島民夫)

クスノキ



- 19年度のみ報告あり
- 24年度のみ報告あり
- 19・24年度報告あり

●平成24年度に報告があったもの

アカマツ	クスノキ
アカメヤナギ	クヌギ
アメリカスズカケノキ	クロガネモチ
イトヒバ	クロマツ
アラカシ	ケヤキ
イチヨウ	コナラ
ウラジロガシ	サイカチ
エノキ	シダレヤナギ
エンジュ	シラカシ
オオシマザクラ	スギ
カヤ	スダジイ
	ソメイヨシノ
	タブノキ
	トウカエデ
	ナンキンハゼ
	ハンノキ
	ヒノキ
	ヒマラヤスギ
	プラタナス
	ポプラ
	マテバシイ
	ムクノキ
	メタセコイア
	モミ
	ユーカリ
	ユリノキ
	ラクウショウ
◎その他の樹木	
	カシの仲間
	サクラの仲間
	マツの仲間
	ヤナギの仲間

## － ハクビシン・アライグマにご注意！ －

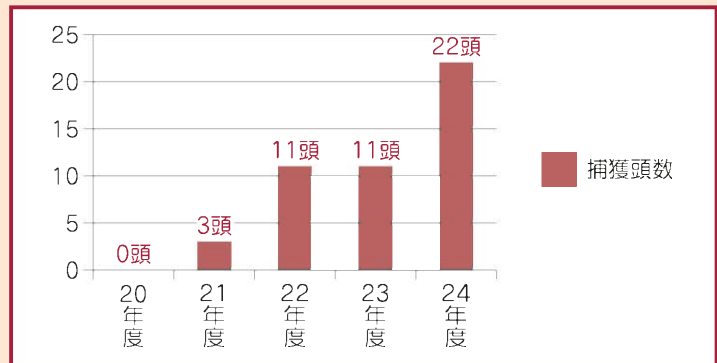
近年、越谷市ではアライグマ・ハクビシンの目撃情報が多発しています。これらは繁殖力が旺盛なため、急激に生息数が増えており、民家に住みつきフンをしたり、果樹園を荒らしたりなど、生活圏への実害が増えています。この現状を踏まえ、環境政策課では平成23年より捕獲箱の貸出しを始めました。詳しくは環境政策課までお問い合わせください。

### ハクビシン



目撃場所：平方、下間久里、上間久里、千間台東、大吉、向畑、船渡、増林、増森、恩間、袋山、千間台西、砂原、新明町、大間野町、谷中町、登戸町、南越谷、蒲生西町、東町、大沢、東大沢、瓦曽根

特徴：頭胴長（鼻の先からおしりまで）50～70cm、体重は3～5kgの哺乳類です。体色は灰褐色か黒褐色で、鼻すじに白線があることが特徴です。夜行性で平地の市街地から山地に生息します。雑食性で昆虫や爬虫類・残飯も食べますが、特に果実類を好みます。帰化動物である可能性が高く、分布域を拡大しています。市街地では人間の生活に依存し、人家の天井裏や軒の下に住みつくこともあります。春から秋に2～4頭の子を出産します。

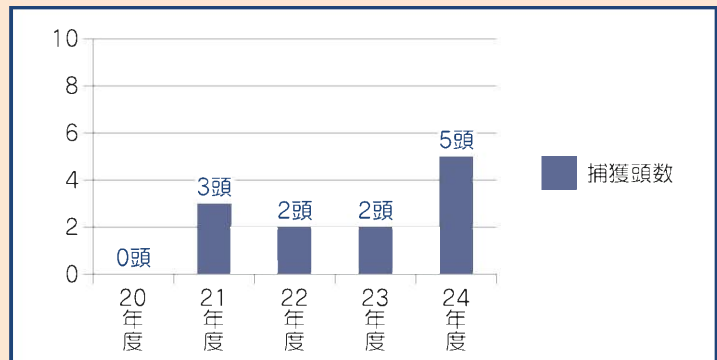


### アライグマ 特定外来生物指定



目撃場所：東越谷、袋山、砂原、宮本町、七左町、大間野町、赤山町

特徴：北アメリカが原産です。頭胴長が40～60cm、体重は6～10kgの中型哺乳類です。姿はタヌキに似ていますが、尾が長く、しま模様があります。雑食性で、植物の果実や種、昆虫・ザリガニ・カエルなどの小動物、鳥や亀の卵、魚などのほか、トウモロコシなど農作物も食べます。



**特定外来生物とは？** 外来生物の中で、地域の自然に大きな影響を与え、もともとした動物や植物を脅かす侵略的な外来生物を、特定外来生物として、法律で指定しています。